

2017年9月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

- 9月は、「道北地域の景気は、持ち直している」としました。
- 道北地域の景気判断に関しては、6月までは「一部に弱めの動きもみられるものの、基調的には持ち直している」としていましたが、7月に判断をワンランク切り上げ、「持ち直している」としました。景気判断の上方変更は2013年12月以来です。今回は、切り上げ後の判断から変更ありません。
- このところの道北地域経済は、①公共投資の増加、②住宅投資の緩やかな持ち直し、③自動車の売行き堅調、④観光の持ち直し、⑤雇用状況の改善、といったプラス要因により持ち直しの方向にあり、設備投資に関しても、先般の6月短観で前年を上回る計画となっていることが確認されました。また、企業の景況感を表す業況判断DIも良好な結果となっていました。足許もこうした状況に変化はないとみています。

■個人消費の動向

- 大型店売上高は、7月は前年比▲0.3%と小幅減少、8月は同+0.4%と小幅増加でした。ほとんど前年並みの実績です。傾向に大きな変化はなく、横ばいの状況が続いているものとみています。
- 新車登録台数は、7月は前年比+1.2%と小幅の増加でしたが、8月は同+8.9%と大きく増加しました。除く軽自動車と軽自動車に分けてみますと、除く軽自動車は、7月は前年比▲1.4%と小幅ながら12か月ぶりのマイナスでしたが、8月は同+8.7%と再び前年を上回りました。軽自動車は、7月（同+7.7%）、8月（同+9.4%）といずれも前年を上回り、回復傾向が明確になってきました。双方とも、モデルチェンジ車を中心に堅調な動きが

続いています。

■観光の動向

- 夏のハイシーズンだった観光は、7、8月とも、一部に弱めのデータもみられますが、持ち直してきているとみています。
- 道北4空港(旭川、稚内、女満別、紋別)の旅客数は、7月は前年比+8.1%、8月は同+3.2%と前年を上回りました。旭川空港の国際線は、乗り入れ便の減少から大幅マイナスとなっていますが、両月とも韓国や台湾との間で臨時便やチャーター便が飛びましたので、対前年の減少幅は縮小しています。4空港の国内線は、次のとおり、7月の紋別以外すべて前年を上回っています。

	7月	8月
旭川	+ 6.6%	+ 3.9%
稚内	+12.9%	+ 5.5%
女満別	+12.6%	+ 6.8%
紋別	▲ 1.0%	+ 5.8%

- ホテル・旅館宿泊者数は、7月が前年比▲0.4%と小幅ながら前年を下回った後、8月は同+1.6%と増加しました。層雲峡や知床などでは外国人客が増えているという話も聞きますが、国内客で数字を落としているところもあります。8月は昨年が台風の影響で落ち込んだ(昨年8月の前年比は▲4.5%)ことを考えれば、今年の8月は増えているといっても実勢的にはさほど強いとは言えないと思います。一方、旭川市内ホテルの稼働率は、7月97.2%(前年95.4%)、8月95.7%(前年87.9%)といずれも高稼働でした。全般的に客室単価も堅調(上昇している)のようです。
- 各地観光は、博物館網走監獄が7、8月とも2ケタの伸び(7月前年比+11.4%、8月同+16.0%)だったほか、利尻・礼文フェリーも好調だった(7月同+9.0%、8月同+8.6%)ものの、他が今ひとつだったため、全

体では、7月が前年比▲4.3%、8月が同+0.8%とやや弱めでした。

■公共投資の動向

- 上川、オホーツク、宗谷の3総合振興局における公共工事請負額は、7月は前年比▲2.5%、8月も同▲11.9%と前年を下回りました。もっとも、4月から8月までの累計では、同+5.9%と引続き増加しています。内容的には災害復旧工事が多いようです。予算の前倒し執行（発注）が行われたということで、建設会社では、各社とも受注を多く抱え、人手不足と相まって、繁忙な状態が続いているようです。

■住宅着工

- 新設住宅着工戸数は、6月は前年比▲18.8%と大幅マイナス、7月は同+22.1%と大幅プラスでした。持家、貸家とも振幅が大きくなっています。住宅着工は、このように振れが大きいので、傾向が読みにくいのですが、緩和的な金融環境の下で、引続き緩やかな持ち直し基調にあるとみています。

■雇用動向

- 雇用状況を示す指標は、引続きタイトであることを示しています。有効求人倍率は、6、7月とも、旭川（6月1.04倍、7月1.12倍）、稚内（6月1.17倍、7月1.28倍）、北見（6月1.23倍、7月1.31倍）、網走（6月1.19倍、7月1.29倍）といずれも1倍を超えています。足許タイトな度合が一段と増している感もあります。新規求人数も、6月は前年を下回った地区（旭川、稚内）もありましたが、7月はすべての地区で前年を上回りました。全体では、両月とも前年を上回っています（6月前年比+4.4%、7月同+5.4%）。

■今後のポイント

- これまで、道北の景気が持ち直していると言っても、今ひとつ本格的な回復

に至らない背景として、個人消費の弱さと設備投資の少なさを指摘してきました。このうち、設備投資に関しては、6月短観で年度内の計画を増加させる動きがみられましたので、あとは、個人消費の動向が大きな鍵になると思います。個人消費は、自動車販売が比較的順調に伸びてきていますので、今後は、横ばい基調をなかなか脱し切れていない大型店の売上に動意がみられるようになることを期待したいと思います。もちろん、設備投資についても、今後、より広範に計画を積み増す動きが出てくることが望まれます。

- 10月2日（月）に9月短観の結果を公表する予定ですので、さしあたりはその結果に着目したいと思います。

以 上

景気判断の推移

公表月	日本銀行本店		日本銀行札幌支店		日本銀行旭川事務所	
	前回比	全国	前回比	全道	前回比	道北(上川・宗谷・オホーツク総合振興局管内)
2014年10月	→	消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動などの影響から生産面を中心に弱めの動きがみられているが、基調的には緩やかな回復を続けている	→	緩やかに回復している	→	一部に緩慢さを残しつつも、基調的には着実に持ち直している
11月		消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動などの影響から生産面を中心に弱めの動きが残っているが、基調的には緩やかな回復を続けている		↓	↓	個人消費等の回復が遅れがみられるが、基調的には持ち直している
12月	↑	基調的に緩やかな回復を続けており、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動などの影響も全体として和らいている	↓	一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している		
2015年1月		↓		↓		
2月	↑	緩やかな回復基調を続けている		↓		
3月		↓		↓		
4月		↓		↓		
5月	↑	緩やかな回復を続けている		↓		
6月		↓	↑	緩やかに回復している		
7月		↓		↓		
8月			公表なし			
9月	↓	輸出・生産面に新興国経済の減速の影響がみられるものの、緩やかな回復を続けている		↓		
10月		↓		↓		
11月		↓		↓		
12月		↓		↓		
2016年1月		↓		↓		
2月		↓		↓		
3月	↓	新興国経済の減速の影響などから輸出・生産面に鈍さがみられるものの、基調としては緩やかな回復を続けている		↓		
4月		↓		↓		
5月		↓		↓		
6月		↓		↓		
7月		↓		↓		
8月			公表なし			
9月		↓		↓		
10月		↓		↓		
11月		↓		↓		
12月	↑	緩やかな回復基調を続けている		↓	→	一部に弱めの動きもみられるものの、基調的には持ち直している
2017年1月		↓		↓		
2月		↓		↓		
3月		↓		↓		
4月	↑	緩やかな拡大に転じつつある	↑	回復している		
5月		↓		↓		
6月		↓		↓		
7月	↑	緩やかに拡大している		↓	↑	持ち直している
8月		↓	公表なし			
9月		↓		↓		







